

## 8日間の日程

- |          |                          |   |
|----------|--------------------------|---|
| 8月15日(水) | 6:30 役場出発、関西国際空港へ        |  |
|          | 11:00 空路、シンガポールへ         |   |
|          | 18:50 空路、パースへ            |   |
|          | 23:50 パース到着              |   |
| 8月16日(木) | 9:15 兵庫文化交流センター 小川所長表敬訪問 |  |
|          | 13:00 ファームステイ            |   |
| 8月17日(金) | 16:30 スワン市長表敬訪問          |  |
|          | 17:00 ホストファミリーと対面        |   |
| 8月18日(土) | 終日 ホストファミリーと過ごす          |   |
| 8月19日(日) | 終日 ホストファミリーと過ごす          |   |
| 8月20日(月) | 8:30 ガバナースターリン高校 体験入学    |   |
|          | 18:00 スワン市主催歓迎レセプション・夕食会 |   |
| 8月21日(火) | 9:00 ホストファミリーとお別れ        |   |
|          | 9:30 パース市内見学             |   |
|          | 15:55 空路、シンガポールへ         |   |
| 8月22日(水) | 1:10 空路、関西国際空港へ          |   |
|          | 8:35 関西国際空港到着            |   |
|          | 11:30 役場到着               |   |



いってきまーす



ファームにて



パース市内

### □派遣後

8月22日、元気に帰国を果たした派遣団一行は、役場での解団式に出席しました。出発前の緊張した面持ちとは一変し、現地での体験について力強い声で、目を輝かせて報告してくれたことがとても印象的でした。

派遣生たちがこの事業を振り返ったとき、たくさんのお出合いや経験が彼らの自信につながっていききました。さらに、多くの人に支えられてこの派遣事業が実施されていると（いん）を感じ、感謝の気持ちを持って振り返ることができれば、彼らの中での派遣事業の成果はさらに大きなものへと変わっていくことでしょう。

この度の派遣事業がきっかけとなり、友だちや先生、家族の皆さんと話をする中で、より広い範囲に国際意識が育まれるとともに、国際理解が深まってくことを願います。

業が実施されていると（いん）を感じ、感謝の気持ちを持って振り返ることができれば、彼らの中での派遣事業の成果はさらに大きなものへと変わっていくことでしょう。

この度の派遣事業がきっかけとなり、友だちや先生、家族の皆さんと話をする中で、より広い範囲に国際意識が育まれるとともに、国際理解が深まってくことを願います。

## 特集

# オーストラリアで異文化体験！ 派遣生が感じ取ったことは…

平成16年度から始まった中学生海外派遣事業は、今年で4回目の実施となり、これまでに37名（今年の派遣生を含む）の中学生たちが西オーストラリア州へ派遣されました。

今年も中学生10名がオーストラリアの地で貴重な体験をしてきましたのでお知らせします。



### ■派遣前

今年の派遣団は男子4人・女子6人（稲美中5人、稲美北中5人）の計10人です。

6月16日に1回目となる事前研修会を実施し、それ以後、英会話や現地で披露する歌や踊りの練習など、度重なる事前研修を積んできました。

8月13日に開催された結団式では、派遣生たちは期待と不安が入り混じった表情を見せていましたが、出発を目前に控えた派遣生それぞれに決意を述べてもらい、派遣事業の成功を誓い合いました。

また、派遣団一行は古谷町長から「何度失敗しても恥ずかしくがらず、積極的に英語を話すようチャレンジしてきてください」という激励の言葉をもらい、出発しました。

### Interview 稲美町国際交流協会長 兼 箕内 捷之



今年も10名の中学生を西オーストラリア州へ送り出し、無事に帰国してくれました。

毎年、中学生を外国へ派遣しておりますが、派遣生の帰国後の笑顔がいつも強く印象に残ります。広大な大地で動物たちとふれあい、ホストファミリーの優しさに接した感動は、きっといつまでも彼らの心の中でキラキラと輝く宝石として生き続けるに違いありません。

私自身、平成16年度の海外派遣事業に引率者として参加させていただきましたが、子どもたちが目に見えて自信を付けていく姿を目の当たりにし、その成長を喜んだことをよく覚えております。

また、その際、パースにある兵庫文化交流センターの小川所長が、「英語が上手いからとか、外国のことをよく知っているだけでは国際人とは言えない。真の国際人とは、皆さんの母国である日本のこと、そして、稲美町のことをよく知り、その心を伝えられる人である」とおっしゃられた言葉に衝撃を受けたことを覚えております。

この海外派遣事業を通じて、中学生たちが外国への視野を広げていくことはもちろんではありませんが、同時に、私たち日本人の心や精神を見つめ直すきっかけになるでしょう。

今後は、生涯教育の立場から、今の中学生が高校生や社会人になっても、国際交流の輪を広げていってほしいことを願うとともに、真の意味で新しい時代を創っていく人材の育成に取り組んで参りたいと決意を新たにしました次第です。

### Interview 平成19年度 派遣団長 大山 健次



8月15日から22日までの8日間は、10名の派遣生にとっては実り多き、wonderful weekでした。Wonderには元々「未知・未経験の物事に好奇心や疑念を抱く」という意味があります。まさに驚きと発見、感動、そしてちょっぴり忍耐の日々でした。

まず私たちが迎えてくれたのは、オーストラリアのスケールの大きさと自然の美しさ、人の純朴な生き方でした。道の両側には牧場の風景が果てしなく続いています。ファームでは動物たちとともに生きる素朴な農場生活の一端を体験させてもらいました。そして何よりロマンチックな天の川や南十字星に大感動！

そして、いよいよホームステイ。初めて出会ったホストファミリーと笑顔で挨拶する派遣生たち。これからは泣いても笑っても日本語は通じません。英語が聞き取れず日本語シクシクになりながらも、何とか笑顔で乗り切った人もいたようです。

スワン市主催のレセプションでは、ラジオ体操と一緒にしたり、歌にあわせてダンスをしたり、会場の方々も大笑いで参加してくださいました。また、ホストファミリーとの別れの日には、たくさんの方々の笑顔の側で、抱き合ったり涙をにじませ、別れを惜しむ姿もありました。

今回の訪問では、オーストラリアの自然や生活を体験できたこともさることながら、スワン市の人々の温かさ、純朴さ、そして気さくな人柄にふれることができたことが大きな収穫ではないでしょうか。

派遣生の活躍のお陰で、稲美町とスワン市の友好関係がまた一歩深まったというさわやかな実感と共に稲美町へと帰路につきました。

# ～海外派遣事業に参加した感想～

親の勧めもあり、この派遣事業に参加することを決心した僕ですが、数を重ねる事前研修で不安は消え、何より支え合える仲間ができました。生きていく間で考えるととても短い期間だったけど、良い仲間と過ごした本当に楽しい8日間でした。

## 支え合える仲間ができた

よしのり  
田中 良宜



ホストファミリーと初対面の後、英語でいろいろと聞かれたけどしゃべるスピードが早くてわかりませんでした。あたり前だけど、僕よりもっともっと小さい子ですら英語で話すことができるのは凄いなと思いました。行って良かった、また行きたいなと思った旅でした。

## 英語を勉強してまた行きたい

じゅんいち  
政平 純一



まだ英語は聞き取れないけど、これからもっと勉強してしゃべれるようになり、まずはもう一度ホストファミリーやファームのジョンさんとたくさん話をしたいです。また、いろいろな経験をし、この先自分がどうしたいのかがはっきりとした、とても前向きな中身が詰まった8日間でした。

## We love Australia ★

さち  
井澤 沙知



私は、出発するときの自分と帰ってきたときの自分は全然違う気がします。学校の英語の授業では学べないことをたくさん学びました。買い物もできるようになって、自分から話しかけられるようになって、大きく成長できたと思います。

## 成長を実感できた旅でした

あすか  
足立 明日香



ステイ4日目、スワン市主催のレセプションのために事前に練習していた出し物は、CDが止まるというハプニングもありましたが最高の形で終えることができ、10人の団結力がさらに深まったと思います。本当に充実して、楽しい8日間を有り難うございました。

## かけがえのない8日間

ふみのり  
大西 史記



ホームステイでは自分から積極的に話すように頑張りました。自分の言いたいことは辞書などを使ったらわかってくれるけど、相手の言っていることが聞き取れなくて、笑顔でのりきったりして頑張りました。ちょっとずつ慣れてきたときに帰るのは寂しかったです。

## 笑顔を絶やさなかった8日間

ゆき  
安福 友紀



ホームステイで一番心に残ったことは、自分で進んで話しかけることが必要だということです。積極的に自分の気持ちを伝えようという姿勢に切り替えると、会話が増えるとともに、英語を話すのがとても楽しくて仕方がなくなりました。

## 積極的な姿勢で全てが変わる

よしひろ  
原 由洋



ファームのジョンさんの振り舞いやたくましさには見習うべきところがたくさんあり、自分たちは甘やかされていると感じました。また、ファームではかわいい動物たちとふれあったり、プラネタリウムのようにきれいな星空を見て感動したり、お互いの「きずな」を深めていくことができました。

## 仲間との強い絆が成功の鍵

あやこ  
太田 垣 彩子



私にとって海外派遣は感謝とありがたみをよく学べたものでした。ホストファミリーの方が気を遣っていろいろしてくれたり、オーストラリアにいて日本が恋しくなったとき、初めて家族や友だちのありがたみを学びました。とても充実した7泊8日の旅でした。

## 気遣う優しさに感謝

ゆうこ  
吉田 裕子



英語は私の苦手教科…。でも、事前研修を重ねていくと楽しくなりました。派遣事業に参加して、もっと英語を使えたら、さらに楽しかったんだろうなと思いました。これからしっかり勉強していきます。そして、こんな機会を与えてくれたことを感謝したいです。

## もっと気持ちを伝えたい

みゆき  
鶴岡 美由紀

